



弘大農学生命科学部 同窓会会報

第38号

令和2年5月 発行
発行 弘前大学農学生命科学部同窓会
TEL 0172-36-2111
FAX 0172-39-3750
振替 02340-7-564
印刷 (株) 笹 軽 印刷



春の校舎



藤崎農場チューリップ



母校の発展と同窓会活動の活性化を願う

同窓会長 高谷清孝

昨年7月6日に開催された同窓会総会において役員改選が行われ、一戸洋次氏の後任として会長に選出された高谷清孝と申します。昭和57年3月、当時の「農学部農学科育種学教室」を卒業いたしました。微力ではありますが、新たな役員体制の下、会員の皆様はもとより、佐々木長市学部長をはじめ学部関係者、学部後援会、地域の関係者の御支援・御協力を賜りながら、母校の発展と会員相互の連携・親睦を図られるよう、全力を尽くして参ります。どうぞよろしく願い申し上げます。

さて、農学生命科学部は、その前身である農学部が、昭和30年7月に、当時の文理学部から独立する形で創設されました。その後、平成9年度には、学部再編成に伴い、理学部生物学科が農学部へ移設されたことなどから「農学生命科学部」と改称され、さらに、平成28年度には、「生物学科」「分子生命学科」「食料資源学科」「国際園芸農学科」「地域環境工学科」の5学科に再編成されて今日に至っております。

この間、卒業生は8,051名、研究生修了生は1,198名を数え、地元青森県内はもとより、国内外のさまざまな分野において活躍されておられます。

現在、弘前大学では、基本理念として「地域連携・地域貢献」や「世界への挑戦」を掲げ、地域や時代の要請に応じて食産業に貢献できる人材の育成をはじめ、海外研修の導入による国際的な視野を持って活躍できる人材の育成など特色ある取組を進めており、青森県はもとより、我が国農業の最大の課題である、人口減少による労働力不足や経済のグローバル化の進展に伴う諸課題にしっかりと対応しております。

私が、この3月まで勤務していた青森県庁にも、弘前大学の卒業生が数多く在籍しており、と

りわけ農林水産部においては、農学職の約6割、農業土木・総合土木職の約3割を占めるなど、青森県の農業振興を図る上で極めて重要な役割を担っています。その一方で、近年は、就職先として青森県庁を希望する学生が減少傾向にあると伺っております。学生の皆様には、卒業後は、できれば青森県庁職員として、県政発展にお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中に流行し、国内でも感染者の増加が続いていることから、今年は、さくらまつりに加え、弘前ねぶたまつりも中止が決定されました。特に、さくらまつりは、今回で100回目という大きな節目を迎えていただけにとっても残念ではありますが、来年は、今年の方も含めてより盛大に開催されるものと思っておりますので、卒業生の皆様には、是非、弘前公園に足をお運びいただき、学生当時を思い出してみられてはいかがでしょうか。

結びに、この同窓会は、皆様からの会費収入によって運営されておりますが、会員数は年々増加する一方で、残念ながら会費納入者は減少傾向となっております。皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。

また、同窓会の目的である母校の発展に積極的に寄与し、会員相互の連絡、親睦を図ることはもとより、学部や学生の支援をはじめ同窓会活動の活性化に向けて、可能な限り取り組んで参りたいと考えておりますので、皆様からの御意見や支部同窓会・会員の活動状況などの情報提供につきましてもよろしくお願いいたします。

末筆ながら、皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。



農学生命科学部の近況

農学生命科学部長 佐々木 長 市

同窓会ならびに関係の皆様には、平素より学部に対する協力等をいただき心より感謝申し上げます。地域貢献が地方大学の大きな使命としての認識がますます高まり、同窓生各位の協力は、地域から必要とされるより良い大学及び学部づくりに欠かせないことと思っております。

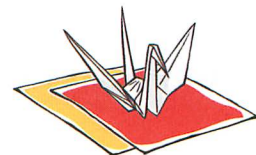
弘前公園のさくらの開花は例年になく早いと予想され、開催日の心配がなされておりましたが、あっという間の新型コロナウイルス感染症拡大とその対策のため、祭りの中止という実態となっております。オリンピック開催延期などの各種行事の変更で社会経済的な影響が心配されております。大学も学生の安全確保のため、入学式を中止しております。同窓生各位にとっても、こうした事態これまでに経験したことのない状況の中、この会報を手にしていただいていると思います。こうした状況ではありますが、学部への温かい支援と叱咤激励をお願い申し上げます。

令和元年は学部改組後4年目になります。農業の国際化の進展、AIの農業への応用、少子高齢化や地方の人口減などの地域の課題を汲み上げる形で改組を進めておりました。この4月からは、初めての卒業生が社会に出ていきます。学部のこれまでの教育が、社会より評価されることとなります。就活のために皆さんの職場に訪問し、いろいろアドバイスなどをいただいたことに感謝申し上げます。改組では、食に関する基本知識を持った地域の食産業に貢献できる人材の育成を改組の一つ目の柱としておりました。また、青森県農業の成長産業化を推し進めるうえで、グローバルに活躍できる人材あるいは農産物の取引に強い人材

の養成は重要と考え二つ目の柱としておりました。こうした地域の特性や要請を踏まえ、食料資源学科に食品コースを増設し、国際園芸農学科には国際的な農産物の取引に精通した教育を強化してきました。学部の5学科では、2年次に学生を1週間程度の海外研修させることを実施してきました。現在まで、中国、フランス、タイ、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア等の国で研修をしました。こうした教育内容等が、卒業生が社会人となって生かされていくことを祈念しております。

令和2年度からは、全学の協力で「地域共創科学研究科」が発足しました。本学部の食品関係教員と農業経済関係の教員が新しくできる研究科に移ることになりました。また、農学生命科学研究科も地域の社会実装をよりよく知る講義を皆様の協力のもとに実施予定です。今年は、卒業式後の祝賀会が新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりましたが、寄付金の一部は学部の活動に広く支援される形としたいと考えております。

今後とも同窓生の皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。



「つや姫」の育成とブランド化戦略

結 城 和 博

・はじめに

思いがけず、恩師から連絡をいただき、2019年10月に弘前大学の総合文化祭で「卒業生の社会での活躍について」というテーマで話をする機会を得た。

私は1982年3月に農学科作物学教室を卒業し、学友の影響もあり、同年4月から出身県の山形県に奉職した。農業改良普及員からスタートし、試験研究に27年、普及に6年、そして農業行政に5年従事した。特に、水稻の新品種育成を担当する研究に3度、計19年勤務し、県職員生活の半分をこの仕事に打ち込むことができた。その中で、本県オリジナル品種の「つや姫」には育成の初期世代からデビュー10年目まで、品種の育成・開発のみならず、ブランド化戦略の推進役まで担当することとなった。ここでは、この品種の育成とブランド戦略に携わった経験を紹介し、学生さんが今後、一人でも多く県の農業技術職員として活躍することを期待したい。

・新品種育成の現場と「つや姫」の育成

本県の水稲新品種育成は青森県農業試験場藤坂支場と同様に冷害の克服を目指し、1935年から農林省指定試験地として現在の尾花沢市で開始され、1964年からは平坦地向けの優良品種を育成する山形県立農業試験場庄内分場（現在の鶴岡市藤島）と役割を分担したが、1982年からは機構改革により庄内（現在の農業総合研究センター水田農業試験場）に一本化され、今日に至っている。県育成の主力品種「はえぬき」は、1995年産からそれまでの「ササニシキ」に代わって県内作付面積のトップの座を続け、2018年産のシェアは約60%である。

「つや姫」（系統名：山形97号）は、1998年に水



田農業試験場で次期主力品種の育成を目標に人工交配（山形70号／東北164号）を行い、選抜育成した良食味の品種である。2009年に山形県奨励品種に採用、「つや姫」と命名され、2011年8月に品種登録された。2018年産は、本県を含む10県（うち3県で食味ランキング特Aを獲得）で奨励品種に採用され、全国の作付シェアは1.1%で第13位に位置している。

水田農業試験場の育種規模は、主食用うるちの場合、交配組合せは約50組、世代促進法で集団養成（無選抜）し、3年目の選抜時の対象個体数は約10万株である。その後、選抜と形質の固定を図りながら種子の増殖を行い、7年目（雑種第8世代）に3系統程度に「山形番号」が付される。これらの系統は、さらに現地で4年程度対照品種と比較され、優位性が認められれば、11年目に奨励品種に採用され、新品種としてデビューすることができる。育種担当には限られた面積、人員、予算の下で、最大の成果をあげることが求められる。

・ブランド化戦略

「つや姫」は、「コシヒカリ」に比較し、短稈で倒れ難く、収量性が高い。その上、品質が良く、ご飯のつやと白さ、味が優れる特性を持っている

る。本県は、限られた消費量の下で産地間競争が激化する中、評価と知名度のない米産地は販路を失うとの危機感から、日本一美味しい米として全国の消費者に評価されるブランド米として新品種を投入することとした。その新品種こそが、「つや姫」である。

水稻品種には、収量、品質、食味の3つの優れた特性が求められるが、佐藤洋一郎氏は「品種改良の作業（育種）は価値判断をそぎ落として到達する一種の「真理の探求」とは異なり、当事者の好みや美学が前面に出た一種のアートであるといえる」（2019：日本のイネ品種考）と指摘している。育種だけではないかも知れないが、研究にはこれまでの経験上以下の3つのNが大切と感じている。①熱意、②粘り、③悩みで、①は意欲や挑戦の表れであり、②によって勘が磨かれ、失敗や成果が出ないことによる③は人を大きく成長させるものとする。

「つや姫」の商品コンセプトは、「品質・食味・安全の三位一体の栽培方法を重視した高級感のあるおいしい米」であり、ターゲットユーザーを産地銘柄や口コミによる評判等で米を選ぶ家庭や米にこだわりを持つホテル・旅館・料理店としている。このため、生産戦略上の生命線は「品質管理の徹底」であり、日本一厳しい生産基準とされる4つのこだわり（①栽培適地の選定、②生産者認定制度、③有機や特別栽培に限定した栽培技術、④タンパク質含有率による出荷基準）を強力に推進している。「つや姫」のブランド化戦略は、育

種担当が新品種を育成し、生産者が精一杯良質良食味米の生産に励み、ぶれない方針でデータや意見を重視し、強いリーダーシップの下オール山形体制で現在も進められている。2019年産「つや姫」はデビュー10年目を迎え、全国はもとより海外でも愛される日本のトップブランド米に成長することを目指している。

・終りに

今後の水稻新品種開発の取組は、イネゲノム情報を用いたDNAマーカー等の遺伝子レベルで進むものとみられるが、育種現場の改善、改良も大切な業務である。現在、ここでも人材育成が強く求められている。育成地及び育成系統の信頼度を高めるため、食味試験をはじめとした特性検定の精度向上を図りたい。そして、代替可能な力のある系統を常に準備することを心がけ、3Nとともに駆伝のように櫛をつなぐ継続性のある取組み意識しながら、スタッフが一丸となって業務を推進したいものである。育種チームの仲間になりませんか。



事務局から

平成17-18年度総会で「弘前大学農学生命科学部同窓会における個人情報の取り扱いについて」が制定されました。支部会開催などで、会員情報が必要な際には「同窓生情報活用依頼書」を郵送またはファックスでお送り下さい。様式は会報第23号（2005年6月1日発行）の10ページにあります。

同窓会ホームページ（<http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>）からもダウンロードできます。



食品資源学科 教授 石川 隆 二

1988年に農学科育種学教室助手に採用されてから、在籍31年目となりました。80名になる農学生命科学部の中でも在籍年数では荒川、青山先生について長い方です。所属する研究室においても齊藤健一先生、新関稔先生、そして原田竹雄先生も退職され、新たに田中克典助教を迎えて運営しています。いまは、主にイネの研究に携わり、基礎研究から徐々に応用研究につながる研究に変わってきました。もともと育種が実学ということもあり、現場に応用できる品種開発にどのように結びつけるかを意識して研究をすすめています。コロナウイルスの影響がなければ2020年秋には30年ぶりに日本育種学会を開催します。その一角では、多くの同窓生が活躍している青森県産業技術センターのお力を借りまして、青森県の農産物育種成果を展示する初の試みを行う予定です。無事開催できることを期待しているところです。

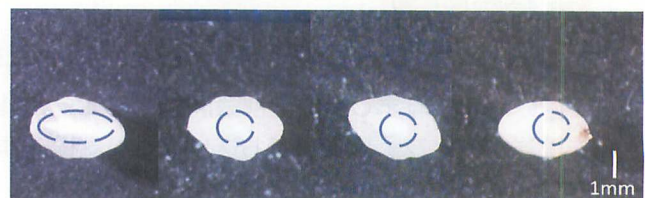
研究としては、イネに関わることをすすめています。青森においても近頃はイネの開花時期に高温になりがちです。このような高温条件で登熟するコメは胴割れが生じる傾向があります。本県には温暖化耐性の特徴を示す「恋ほのか」という香り米品種が育成されています（農学部26回生の川村陽一さんなど複数の同窓生が関与）。その品種を利用して交雑や選抜をすすめて写真に示しているように胴割れを生じない酒米を選抜しています。この研究は他の研究室卒業の同窓生の方である農学部8回生の三浦 慧様の三浦酒造の共同研究としてサポートいただいています。早い内に2本目の「日本酒弘前大学」に使ってもらえるように成果をだしたいものです。

育種の卒業生では、何回か第25回生の南島 誠さん（現長野県南信州改良普及センター）に訪問いただいています。できれば同期の年代に近い世代が育種した成果を持ち寄って試食会を弘前で開催したいとのご要望です。もし、実現するな

ら僭越ながら学部側での対応をさせていただきます。南島さんはナシ“サザンスイート”などを育種しているそうです。最近では個人情報保護法の関係で連絡がつきづらいとのことですので、みなさんの周りで情報がありましたらお寄せください。できれば盛大な育種成果の持ち寄りパーティーをしたいと思います。

さらに、昨年からは青森県農林水産部長であられた高谷清孝様が同窓会長に就任されました。こちらも出身研究室として強力にサポートさせていただく所存です。

さて、弘前大学農学生命科学部は地域貢献を主なミッションとして選択し、はや5年目となりました。その一環として他学部と協力して青森県に貢献できるプロジェクトの推進を行っており、わたしもプロジェクト実務者として微力ながら貢献させていただいております。その成果は文科省重点支援の評価でも高く評価されています。これも同窓生の方々の御協力があっけなしたことです。今後とも一層のお力添えをお願いします。



写真．改良中の温暖化耐性酒米系統

定年退職教員からの寄稿



大学教育と卒業研究

生物学科 杉山修一

この3月で、弘前大学を定年退職することになりました。私が弘前大学に赴任したのは、今から25年前、阪神淡路大震災が起きた直後の1995年の4月でした。それから、25年間の教員生活の中で81名の学部卒業生と22名の大学院修士生を社会に送り出すことができました。

教育は研究と並ぶ大学の柱です。日本の大学教育の特徴は研究室所属と結びついた卒論必修制度です。卒論は典型的なアクティブラーニングで、教員と学生の互いの積極的な関与が必要です。卒論指導の方法にも教員間で差が見られ、学生に対し細かく指導する人から学生の自主性に任せ放任するタイプの人があります。私はどちらかという、後者の立場をとってきました。これには、私の学生時代の経験が強く関係しています。私が学生だった昭和50年頃は、まだ学生による授業評価などない時代でしたので、今から思うとかなりいい加減な講義も多く、卒業研究でも私は教員から親身になって指導してもらった経験がありません。教えてもらえないので、必然的にすべて自分でやらないとならず、当時は苦労し、教員に対し指導してもらえないことへの不満もありました。しかし、後から思うと、結果的に教えてもらわないという教育が、実は最も優れた教育であることに気づきました。小中高までは多くの生徒は塾に通い、決められた内容を覚え、効率よく問題を解く技術を学びます。しかし、複雑な世の中では、学校で習った知識が直ちに通用することはまれです。社会に出て直面する多くの問題の解決には、これまでの知識を基に、自分で必要な情報を入手し、自分の頭で考え、結論を出すという主体性が必要です。このような主体性は、自発的に行動し、失敗を重ね、そこから学ぶという経験を経ないとなかなか身につけません。大学時代の卒業研究や修士研究はいくら失敗しても誰も困らないの



で、学生にとっては失敗経験と成功体験を積む格好の機会になります。実際、主体的に卒業研究や修士研究に取り組み、失敗を重ねながら優れた研究成果を出してきた学生ほど社会に出ても輝いているように思います。

しかし、最近は、今まで通りの卒業研究を行うことが困難になってきたと強く感じています。安倍政権が誕生した頃、欧米に留学している日本人学生の卒業に合わせて就職活動の開始を6月にずらす決定がなされました。それまでは、春休みの期間に集中的に就職活動が行われ、5月の連休明けには、多くの4年生が就活を終え、卒業研究に取り組むことが可能でした。しかし、就職活動が後ろにずれただけにより、就活と卒業研究がもろにかぶるようになり、就活終了が夏以降にずれ込むことも多く、満足な卒業研究ができなくなりました。また、日本の社会も大学の専門性に対する評価が変わりました。学部レベルでの専門性が評価されない時代になり、理系の学生であっても文系と同列に評価されるようになり、専門性の高い卒業研究を必修で課すことの意味も薄れてきました。最近の大学教員は雑務も増え、忙しくなり、教育にかける時間のかなりの割合を占める卒論指導の負担が大きくなっているのも事実です。卒業研究の教育効果が高いことは確かなのですが、このような時代の変化の中で、卒業研究を大学教育

の中でどう位置づけるかは大きな課題となっています。

これから、AIの発達で多くの仕事人が人から機械に移る時代が来ると言われています。自分の頭で考え、判断するというAIにはできない能力を学生に身につけさせる必要性はますます高くなります。このような社会の期待に応えるためにも、これまでのやり方にとらわれず、大学院の役割も考えながら時代に沿った新しいカリキュラムを考える時期に来ています。私の弘前大学での25年の教員生活はこのようなことを感じながら終えることになりました。



令和元年度卒業生・修了生の祝賀会ならびに就職・進学先

令和2年3月23日に、令和元年度の農学生命科学部卒業証書授与式および大学院農学生命科学研究科の学位記授与式が行われた。今年度の学部卒業生は205名、大学院修士課程修了生は46名で、農学部と農学生命科学部をあわせた卒業生は8,051名、研究科修了生は1,198名となった。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、卒業・修了生だけが出席する式典のみの開催となり、例年行われる記念写真撮影や祝賀会兼同窓会歓迎会等の催しは全て中止となった。少しばかり寂しげな卒業式となったが、卒業生にとってはいつもとは雰囲気異なるこの巣立ちの日が、より記憶に残るものであることを期待する。



本年度の卒業・修了生の就職先および進学先は以下の通りである（括弧内に数字を記入した場合以外は各1名である）。（令和2年3月26日現在）

生物学科

フラワーヒルズ（株）、農林中央金庫、伊藤ハムデリー（株）、（株）弘善商会、林野庁、（株）日南、ミヤリサン製菓（株）、（株）薬王堂、青森県職員、（有）オフィス・ポストイット、防衛省・自衛隊、（有）ゆめりんご、（株）ユニバース、PFU北海道（株）、弘前大学大学院（11）、東京大学大学院（2）、北海道大学大学院、京都大学大学院、大阪市立大学大学院

分子生命科学科

農林水産省、学校法人東北工業大学、よつ葉乳業（株）、（株）コメ兵、青森県職員、（株）メッセ・ゴー、北海道職員、（株）リアライブ、医療法人新産健会、（株）大丸松坂屋百貨店、皇宮警察本部、Avintonジャパン（株）、日水製菓（株）、いわて生活協同組合、北海道警察、ソニーリージョナルセールス（株）、（株）ウイン・コンサル、プライフーズ（株）、弘前大学大学院（12）、横浜市立大学大学院（2）、北海道大学大学院、東京工業大学大学院

食料資源学科

（株）セコマ（2）、（株）ユニバース（2）、ユナイテッド&コレクティブ（株）、長野県職員、盛岡市職員、（株）シイエヌエス、福井県職員、（株）ケイシイシイ、高橋カーテンウォール工業（株）、（株）ドトールコーヒー、全国農業協同組合連合会 群馬県本部、（株）ベイシア、独立行政法人農林水産消費安全技術センター、（株）マースエンジニアリング、北海道職員、井村屋（株）、（株）サン格林太陽園、一般財団法人秋田県総合公社、江戸川区職員、DCMホームマック（株）、山形県職員、SCSK北海道（株）、青森県職員、オリジン東秀（株）、第一生命保険（株）、オリゾンシステムズ（株）、東和電材（株）、キューピータマゴ（株）、日本住宅（株）、サンマルコ食品（株）、福島県公立学校、ジャパニヤス（株）、（株）アウトソーシング、ホクレン農業協同組合連合会、弘前大学大学院（10）、東北大学大学院、名古屋大学大学院、青森県立保健大学

国際園芸農学科

（株）ユニバース（3）、（株）クリエイション、東北緑化環境保全（株）、全国農業協同組合連合会青森県本部、（株）スタッフサービス・エンジニアリング、北石狩農業協同組合、（株）ゼンショーホールディングス、青森県農業協同組合中央会、（株）ダイキアクシス、太平洋総合コンサルタン

ト（株）、（株）テクノル、農林水産省九州農政局、（株）みちのく銀行、国立大学法人北海道大学、秋田県職員、新函館農業協同組合、生活協同組合共立社、（株）青森銀行、静岡県農業協同組合中央会、（有）ファーム富田、太子食品工業（株）、ジャパニヤス（株）、大東港運（株）、プリマハム（株）、日本食研ホールディングス（株）、ホクレン農業協同組合連合会、北海道職員、岩手県職員、（株）IDOM、国立大学法人静岡大学、弘前大学大学院（4）、北海道大学大学院（2）、京都府立大学

地域環境工学科

北海道職員（5）、青森県職員（2）、日本工営（株）（2）、東北農政局、（株）福島民報社、八千代エンジニアリング（株）、NTCコンサルタンツ（株）、（株）オリエンタルコンサルタンツ、サンスイコンサルタンツ（株）、東社シーテック（株）、ライト工業（株）、内外エンジニアリング（株）、伊東組土建（株）、農林水産省東北農政局、横浜市職員、（株）ドーコン、北海道エア・ウォーター（株）、宮城県職員、紅屋商事（株）、弘前大学大学院、北海道大学大学院

<大学院農学生命科学研究科修了生>

生物学コース

メルスモン製菓（株）、（株）MAPPY LABO、青森県職員、（株）NICHIGO、（株）東武ホテルマネジメント、岩手大学大学院

分子生命科学コース

ニプロ（株）（2）、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、亀田製菓（株）、（株）ルクールプラス、ジーエルサイエンス（株）、青木油脂工業（株）、シスメックス（株）、同仁医薬化工（株）、北海道公立学校、北良（株）、（株）ベアレン醸造所、一般財団法人日本食品分析センター、岩手大学大学院（2）、東京大学大学院

生物資源学コース

宝醤油（株）（2）、雪印種苗（株）、（株）ブルボン、一般財団法人ニッセンケン品質評価センター、東社シーテック（株）、一般財団法人青森県薬剤師会 食と水の検査センター、北海道職員、極東貿易（株）、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構、岩手大学大学院

園芸農学コース

ホクレン農業協同組合連合会（2）、（株）中神種苗店、青森県職員、WDB（株）エウレカ社、カネコ種苗（株）

地域環境工学コース

日本工営（株）

教職員人事

退職（定年退職） 令和2年3月31日
 杉山 修一（すぎやま しゅういち）
 教授(生物学科)

退職（辞職） 令和2年3月31日
 葛西 身延（かさい みのか）
 教授(生物学科)
 川崎 通夫（かわさき みちお）
 准教授(国際園芸農学科)

採用（新任）
 なし

昇任
 平成31年4月1日
 森 洋（もり ひろし）
 教授(地域環境工学科)
 令和元年5月1日
 森谷 慈宙（もりたに しげおき）
 准教授(地域環境工学科)

会費納入と住所通知のお願い

令和元-2年度会費5,000円を、同封致しました振込用紙でお納め下さいますようお願い致します。
 なお、すでに令和元-2年度会費をお納め頂いた会員には振り込み用紙を同封しておりません。
 転勤や転居で住所が変更になりましたら、事務局までご一報下さい。

同窓会費に関する大事なお知らせ

昨今の消費増税、郵便料金および振替手数料の値上げ、振替受払通知の有料化など、厳しい財政事情をふまえ、令和元年度総会におきまして令和3年度（2021年度）より正会員会費を以下のように改定させて頂くこととなりました。

(旧) 5,000円/2年分 (新) 3,000円/年

事務局では、これに合わせ、これまで2年を単位としていた会費納入につきまして、納入手続きの煩雑さの軽減のため、複数年一括納入を可能とするほか、同窓生の会合時に弘前大学ブランドの日本酒をお送りするサービス（別欄で案内）を新たに始めさせていただきます。

会員の皆様方におかれましては、何かとご負担の多くなっている時期に恐縮ではありますがご理解とご協力をお願い申し上げます。

同窓会事務局

〒036-8561 弘前市文京町3 弘前大学農学生命科学部同窓会

泉 完 電話 0172-39-3843 E-mail mizumi@hirosaki-u.ac.jp

加藤 幸 電話 0172-39-3869 E-mail kato@hirosaki-u.ac.jp

濱田 茂樹 電話 0172-39-3772 E-mail shamada@hirosaki-u.ac.jp

母校援助費で整備されました

同窓会では、学部建物周辺の環境整備に役立てていただくことを目的として、会費収入の一部を学部へ寄付しています。令和元年度は、学部校舎内の壁の修繕を行いました。



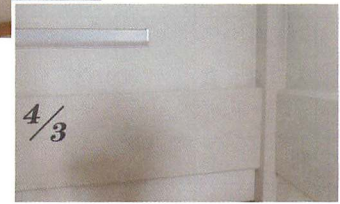
修繕前



修繕後



修繕前



修繕後

令和元－2年度 同窓会総会報告

令和元－2年度総会が、令和元年7月6日15時からラ・プラス青い森において開催されました。平成29－30年度事業報告および会計報告、令和元－2年度の事業計画、予算および役員案について、事務局より報告と提案がなされ、質疑応答の後、承認されました。総会終了後には、懇親会が執り行われました。

議案1. 平成29－30年度(2017－2018年度)事業報告

平成29年度(2017年度)事業

- H29. 5. 16 同窓会報第35号発行
- H29. 6. 9 全学同窓会会費(15万500円)の納入
- H29. 6. 23 同窓会役員会開催(於弘前大学農学生命科学部)
- H29. 7. 1 同窓会総会(於弘前市菊富士本店)
- H29. 9. 1 中部農工会(静岡)(佐々木学部長、加藤会計幹事出席)
- H29. 9. 26 同窓会報第35号他^{注1)}の在学生保証人への送付(成績通知表に同梱)
- H30. 2. 6 推薦入試合格者への会報第35号他^{注2)}の発送(入学手続き書類に同梱)
- H30. 3. 6 前期日程合格者への会報第35号他^{注2)}の発送(入学手続き書類に同梱)
- H30. 3. 20 後期日程合格者への会報第35号他^{注2)}の発送(入学手続き書類に同梱)
- H30. 3. 23 卒業・修了生同窓会入会祝賀会^{注1)}会長挨拶状(入会金納入依頼状)・振込用紙・同窓会報35号・全学同窓会報18号
- ^{注2)}会長挨拶状(入会案内)・同窓会規約・振込用紙・同窓会報35号・全学同窓会報18号

平成30年度(2018年度)事業

- H30. 5. 18 同窓会報第36号発行
- H30. 6. 7 全学同窓会会費(15万500円)の納入

- H30. 9. 25 同窓会報第36号他^{注1)}の在学生保証人への送付(成績通知表に同梱)
- H31. 2. 8 平成29・30年度分母校援助費(41万円)納入
- H31. 2. 12 推薦入試合格者への会報第36号他^{注2)}の発送(入学手続き書類に同梱)
- H31. 3. 6 前期日程合格者への会報第36号他^{注2)}の発送(入学手続き書類に同梱)
- H31. 3. 20 後期日程合格者への会報第36号他^{注2)}の発送(入学手続き書類に同梱)
- H31. 3. 22 卒業・修了生同窓会入会祝賀会^{注1)}会長挨拶状(入会金納入依頼状)・振込用紙・同窓会報36号・全学同窓会報19号
- ^{注2)}会長挨拶状(入会案内)・同窓会規約・振込用紙・同窓会報36号・全学同窓会報19号

【参考】

令和元年度(2019年度)事業 実施状況(参考)

- R 1. 5. 14 同窓会報第37号発行
- R 1. 5. 21 全学同窓会会費(15万500円)の納入
- R 1. 6. 1 弘前大学70周年記念に関わる協賛広告(東奥日報)の掲載
- R 1. 6. 28 同窓会役員会開催(於弘前大学農学生命科学部)
- R 1. 7. 8 同窓会総会開催予定(於青森市ラ・プラス青い森)

議案2. 平成29-30年度(2017-2018年度)収支決算

収 入

単位(円)

帳票区分	項 目	平成29-30 (2017-2018) 年度予算 (a)	平成29年度 (2017年度) (b)	平成30年度 (2018年度) (c)	平成29-30 (2017-2018) 年度決算 (d)	平成27-28 (2015-2016) 年度決算	達成率 (d)/(a)	摘 要
A	繰越金	2,844,564	2,844,564	-	2,844,564	3,234,611	100%	
B	正会員会費	2,250,000	1,615,000	520,000	2,135,000	2,110,000	95%	【参考】522名(H.19-20)→435名(H.21-22)→487名(H.23-24)→306名(H.25-26)→422名(H.27-28)→427名(H.29-30)
C	入会費	2,000,000	890,000	940,000	1,830,000	1,990,000	92%	【参考】240名(H.19-20)→189名(H.21-22)→160名(H.23-24)→198名(H.25-26)→199名(H.27-28)→183名(H.29-30)
D	利 息	700	15	12	27	709	4%	
E	そ の 他	20,000	81,000	10,000	91,000	20,000	455%	総会懇親会の会費(¥3,000×27名)寄付(¥10,000×2)
	合 計	7,115,264	5,430,579	1,470,012	6,900,591	7,355,320	97%	

支 出

単位(円)

帳票区分	項 目	平成29-30 (2017-2018) 年度予算 (a)	平成29年度 (2017年度) (b)	平成30年度 (2018年度) (c)	平成29-30 (2017-2018) 年度決算 (d)	平成27-28 (2015-2016) 年度決算	達成率 (d)/(a)	摘 要
1	会報発行費	3,000,000	1,443,358	1,363,893	2,807,251	2,985,273	94%	
2	卒業祝賀会費	600,000	297,119	283,996	581,115	604,077	97%	
3	支部派遣費	50,000	20,000	0	20,000	46,286	40%	(静岡H.29) 学部長+加藤
4	母校援助費	410,000	0	410,000	410,000	350,000	100%	H.27-28会費収入の10%相当額(H.29-30会費では39.65万円)
5	総会経費等	100,000	102,000	0	102,000	111,900	102%	
6	庶務・管理費	30,000	7,110	0	7,110	33,000	24%	役員会準備
7	通信・印刷費	50,000	18,000	12,960	30,960	52,539	62%	*コピーはH.30年度より母校援助費口座から一時的に借用し、次期の援助費に加算して返却する新方式に変更
8	慶弔費	10,000	3,088	3,294	6,382	6,259	64%	
9	全学同窓会会費	301,000	150,500	150,500	301,000	280,000	100%	
10	振替手数料	84,500	76,418	22,140	98,558	41,422	117%	* H.27-28年度手数料の過小算定分29,668円をH.29年度分に加算し計上。 * H.29-30期の実手数料、68,890円。
11	予備費(繰越)	2,479,764		2,536,215	2,536,215	2,844,564	102%	
	合 計	7,115,264	2,117,593	4,782,998	6,900,591	7,355,320	97%	

<会計監査>

2019年 6月 28日

会計処理が適正であると認めます。

監 事

齋藤 寛

 (サイン可)

議案3. 令和元年－2年度事業計画(案)

- (1) 役員会の開催
 (2) 総会の開催
 (3) 会報第37および38号の発行(37号は発行済み)
 (4) 支部活動の支援(会員情報の提供、通信連絡費の補助、役員や教員の派遣)

- (5) 全学同窓会会費の納入
 (6) 母校への援助
 (7) 卒業・修了記念写真撮影の実施
 (8) 卒業・修了祝賀会共催(同窓会入会祝賀会も兼ねる)および懇話会の主催
 (9) その他

議案4. 令和元年－2年度(2019－2020年度)予算(案)

収 入

単位(円)

帳票区分	項 目	令和元－2年 (2019-2020) 年度予算(案) (a)	平成29-30年 (2017-2018) 年度実績	平成29-30年 (2017-2018) 年度予算 (b)	前期比 (a)/(b)	摘 要
A	繰 越 金	2,536,215	2,844,564	2,844,564	89%	
B	正 会 員 会 費	2,250,000	2,135,000	2,250,000	100%	450名×¥5,000
C	入 会 費	2,000,000	1,830,000	2,000,000	100%	200名×¥10,000
D	利 息	100	27	700	14%	
E	そ の 他	100,000	91,000	20,000	500%	
	合 計	6,786,315	6,900,591	7,115,264	95%	

支 出

単位(円)

帳票区分	項 目	令和元－2年 (2019-2020) 年度予算(案) (a)	平成29-30年 (2017-2018) 年度実績	平成29-30年 (2017-2018) 年度予算 (b)	前期比 (a)/(b)	摘 要
1	会 報 発 行 費	3,000,000	2,807,251	3,000,000	100%	年1回×2年分、送料値上げ(85円→106円)、消費税による負担増20万円を含む
2	卒 業 祝 賀 会 費	580,000	581,115	600,000	97%	
3	支 部 派 遣 費	20,000	20,000	50,000	40%	
4	母 校 援 助 費	410,000	410,000	410,000	100%	H.29-30年度会費収入の1割(39.65万円)+コピー代≒41万円をR.元-2年度分として納入
5	総 会 経 費 等	150,000	102,000	100,000	150%	
6	庶 務 ・ 管 理 費	20,000	7,110	30,000	67%	H.29-30年度実績から算出
7	通 信 ・ 印 刷 費	30,000	30,960	50,000	60%	H.29-30年度実績から算出
8	慶 弔 費	10,000	6,382	10,000	100%	
9	全学同窓会会費	301,000	301,000	301,000	100%	¥150,500×2年
10	振 込 手 数 料	90,000	98,558	84,500	107%	*受払通知有料化分を加算し算定
11	予 備 費 (繰 越)	2,175,315	2,536,215	2,479,764	88%	
	合 計	6,786,315	6,900,591	7,115,264	95%	

議案5. 令和元年－2年度役員等(案)

名誉会長ならびに顧問

役職名	氏名	現あるいは前役職	卒業年	研究室
名誉会長	佐々木 長 市	学部長		
顧 問	豊 川 好 司	元学部長	昭38	畜産
	岩 井 邦 彦	元会長	昭32	土肥
	三 上 翼	元会長	昭42	農経
	一 戸 洋 次	前会長	昭43	土肥

役員（*新任者）

役職名	氏名	勤務先等	卒業年	研究室	
会 長	高 谷 清 孝*	青森県農林水産部長	昭57	育種	
副 会 長	赤 平 次 郎*	青森県農林水産部農林水産政策課長	昭61	園利	
	熊 谷 幸 一	弘前市健康こども部健康増進課参事	昭57	土肥	
	野 呂 文 人*	青森県農協中央会経営対策部・教育研修部部長	昭61	作物	
監 事	齊 藤 寛	元弘前大学農学生命科学部	昭42	土肥	
	岩 谷 健	元青森県農協中央会	昭56	農経	
支 部	弘 前	外 川 吉 彦*	弘前市健康こども部長	昭63	経済
	東 青	野 呂 文 人*	青森県農協中央会経営対策部・教育研修部部長	昭61	作物
	山 形	柴 田 三 郎	(株) 田村測量設計事務所 技術参与	昭56	農地
	福 島	土 崎 真*	福島県北農林事務所村整備部長	昭57	水利
	中部農工	木 下 雅 公	静岡コンサルタント(株) 理事	昭55	造施
評 議 員	工 藤 啓 一	元弘前大学農学生命科学部	昭38	作物	
	工 藤 明	元弘前大学農学生命科学部	昭47	水利	
	櫻 田 隆 夫	東北建設コンサルタント(株) 代表取締役	昭52	造施	
	長谷川 幸 治	NTCコンサルタンツ(株) 東北支社青森営業所長	昭54	水利	
	田 中 満	青森県立弘前実業高等学校	昭58	育種	
	駒 井 秋 浩	青森県立黒石養護学校長	昭59	果樹	
	清 藤 文 仁	青森県産業技術センター農林総合研究所	昭59	生化	
	齋 藤 知 明	青森県産業技術センター弘前工業研究所	昭59	畜産	
	石 澤 雅 史*	青森県農林水産部構造政策課長	昭60	造施	
	東 信 行	弘前大学農学生命科学部	昭62	生物	
	松 崎 正 敏*	弘前大学農学生命科学部	昭62	畜産	
	成 田 澄 人*	青森県農林水産部農林水産政策課長代理	昭63	園利	
	堀 子 義 人*	弘前市立病院事務局総務課	平 4	土肥	
	工 藤 里 実*	青森県農林水産部構造政策課総括主幹	平 5	土肥	
	鳴 海 純	青森県立柏木農業高等学校教諭	平 6	果樹	
	澁 谷 明 伸*	弘前市企画部企画課長	平 7	農機	
	對 馬 由 紀子*	青森県産業技術センター野菜研究所	平12	植病	
	成 田 拓 未*	弘前大学農学生命科学部	平15	経済(院)	
	栗 田 大 輔	弘前大学農学生命科学部	平16	分子生命	
	房 家 琛	弘前大学農学生命科学部(金木農場)	平16	畜産(院)	
越 後 博 之	青森県立柏木農業高等学校	平16	生物生産		
福 田 和 光	大鰐町役場 議会事務局係長	平19	地域環境		
高 橋 恵*	青森県三八地域県民局八戸家畜保健衛生所	平20	生物生産		
小 林 達	青森県産業技術センターりんご研究所	平24	園芸農学		
幹 事	総 務	泉 完	弘前大学農学生命科学部	昭53	水利
	情 報	濱 田 茂 樹	弘前大学農学生命科学部	平 9	生化
	会 計	加 藤 幸	弘前大学農学生命科学部	平 4	造施

議案6. 同窓会規約の改正(令和3年度以降の会費納入方法の変更)

1 収支の現状

同窓会の会費収入は、参考資料1、2のように減少傾向にある。

正会員収入は、同窓生の数がH13-14年度の約4,700名からR1-2年度には約8,000名とほぼ倍増しているが、会費はむしろ減少している。また、H27年度より学部定員が180名から215名に増加したにもかかわらず、入会金収入も減少している。

一方、支出は会報の発行部数の増加、これに伴う送料等の出費が大きく増加していることから単年度の収支は赤字となり、繰越金が急速に減少し深刻な財政状況にある。

2 対応策

これ以上の事務経費削減は難しく、また会報発行や記念写真等を削減、廃止した場合にはサービス低下の印象を招き、会費納入率がむしろ下がるリスクが大きい。一方、振替受払通知が来年度から有料化され、今後手数料負担や消費税等の増加が予想される。

このため、会員の同窓会への理解を深め、会費の納入意識を喚起するよう支部活動支援などの取組を工夫する一方、規約に定める会費の額と納入方法を次のとおり変更する。

3 改正の内容

2年5,000円前納の正会費を、令和3年4月から年額3,000円とし、毎年納入とする。これによって、隔年よりも毎年会員に働きかけ、会費の納入意識を喚起するうえで効果的と思われる。なお、会員から「近くに郵便局がない」、インターネット振込やコンビニ決済の要望など納入方法に対する意見も多く届いているため、複数年の一括支払いも含めて必要経費等を考慮しながら検討・対応したい。

4 同窓会規約(第11条)改正案

改正案	<p>第11条 本会の会計年度及び経費は次のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会計年度は4月1日から翌々年3月31日までの2年間とする。 2 経費は会費と寄付金をもって充てる。 3 会費は入会費と正会費とする。 <ul style="list-style-type: none"> 入会費 10,000円(学部または大学院入学時) 正会費 年額3,000円(正会員) <p>付則 正会費の規定は、令和3年4月1日から適用し、それまでの間は従前(2年間5,000円前納)のとおりとする。</p>
改正前	<p>第11条 本会の経費は会費及び寄付金をもってこれに充てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会計年度は4月1日から翌々年3月31日までの単年度とする。 2 会 費 <ul style="list-style-type: none"> 入会費 10,000円 正会費 1年度(2年間) 5,000円(2年分前納)

弘前大学農学生命科学部同窓会規約

令和元年7月6日改正

- 第1条 本会は弘前大学農学生命科学部同窓会と称し、事務局を弘前大学農学生命科学部内に置く。
- 第2条 本会員を正会員、特別会員及び準会員とし、学部卒業生及び大学院修了生を正会員、母校教員、前教員（前教官）及び関係者を特別会員、在學生を準会員とする。
- 第3条 本会は母校の発展に積極的に寄与し、会員相互の連絡、親睦を図ることを目的とする。
- 第4条 本会の目的達成のため次の事業を行う。
- 1 会報の発行
 - 2 支部の設置
 - 3 会員情報の管理
 - 4 その他本会目的達成のため必要な事項
- 第5条 本会に次の役員を置く。
- 1 会長 会員中より役員会で推薦し、総会で決定する。
 - 2 副会長 同上
 - 3 監事 同上
 - 4 支部長 支部総会で正会員より選出する。
 - 5 評議員 総会で正会員中より30名以内を選出する。
 - 6 幹事 正会員中より若干名を会長が委嘱する。
- 第6条 役員の仕事は次のとおりとする。
- 1 会長 本会を代表し会務を統理する。
 - 2 副会長 会長を補佐し、会長の代理をつとめる。
 - 3 監事 会計を監査する。
 - 4 支部長 支部を代表し、支部の事務をつかさどる。
 - 5 評議員 役員会を構成する。
 - 6 幹事 本会の会務を担当する。
- 第7条 役員の任期は次のとおりとする。
- 1 会長、副会長、監事、評議員及び幹事の任期は2年とする。
 - 2 支部長の任期は支部の決定による。
- 第8条 本会に名誉会長と顧問を置く。
- 1 名誉会長は学部長を推戴する。
 - 2 顧問は学部長及び正副会長の経験者から会長が本人の承諾を得て委嘱する。副会長経験者の任期は委嘱した会長の任期内とする。
- 第9条 総会の開催及び職務は次のとおりとする。
- 1 通常総会は隔年毎に開催するものとし、期日は役員会において決定する。
 - 2 臨時総会は役員会において必要と認められた場合に開く。
 - 3 通常総会においては次の事項を審議する。
 - イ 過去2年間の事業報告及び収支決算報告
 - ロ 今後2年間の事業計画及び収支予算
 - ハ 規約改正
 - 4 総会の議事は出席会員の過半数をもって決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
 - 5 議長は総会において出席会員中より選出する。
- 第10条 役員会の構成、開催及び職務は次のとおりとする。
- 1 役員会は会長、副会長、監事、支部長、評議員及び幹事をもって構成する。
 - 2 役員会は会長が招集し、本会の方針、会の改廃その他重要事項を審議し、これを総会に提案する。
- 第11条 本会の会計年度及び経費は次のとおりとする。
- 1 会計年度は4月1日から翌々年3月31日までの2年間とする。
 - 2 本会の経費は会費及び寄附金をもって充てる。
 - 3 会費は入会費と正会費とする。
 - イ 入会費 10,000円（学部または大学院入学時納入）
 - ロ 正会費 年額3,000円（正会員）
- 付則（適用期日）
- 正会費の規定は、令和3年4月1日より適用し、それまでの間は従前（2年間5,000円前納）のとおりとする。
- 申し合せ事項
1. 特別会員、正会員が逝去した場合、弔電をもって弔意を表する。
 2. 学部中退者で希望者は正会員とする。

新企画

「弘大酒を囲んで、盛り上がりよう!!」

これから、同窓会や出身研究室の仲間との飲み会などを考えている皆様！是非、同窓会事務局にご一報ください。会の様子の簡単なお報告やお写真を会報誌にご紹介いただくことを前提に、弘大酒をお送りいたします。参加人数が5名様以上の時は1本、10名様以上の時は2本（最大2本まで）を幹事様宛に送らせて頂きます。コロナウイルスで自粛モードが続いております。締め切りは設けておりませんので、まずは皆様の健康を第一に考え、この困難を乗り越えましょう。そして、落ち着きましたら、出身大学のお酒を囲みながら懐かしい話に盛り上がりましょう。お待ちしております！



連絡先

加藤 幸 電話 0172-39-3869
E-mail kato@hirosaki-u.ac.jp

濱田 茂樹 電話 0172-39-3772
E-mail shamada@hirosaki-u.ac.jp



同窓生近況だより

2019年6月15日、昨年につき、旧農業工学科、造構施設学教室が創設された頃の卒業生（5名）が、さいたま市大宮駅前の銀座アスターに集い同窓会を行いました。ト蔵建治先生をはじめ、参加の皆様が、それぞれに何らかの病を乗り越え元気に過ごせる喜びで「会えるうちが華だね！」と話しは盛り上がりました。



前列：写真に向かって右側から、小西春雄さん、ト蔵建治先生、佐藤伸一さん
後列：写真に向かって右側から、三浦理さん、沼田祐一さん、丸山和一さん



愛知県、静岡県の農業土木系卒業生が工藤明名誉教授を囲んで懇親会を開催しました。

（令和元年12月14日：名古屋）



「2019年9月21日、旧農業工学科 昭和46年卒（卒後48年）のクラス会を弘前パークホテルで行いました。この会は、3年に1回毎回弘前で行っています。

今回の参加者は、全て70才以上になりましたが、北海道・青森・岩手・秋田・埼玉・神奈川・千葉から15名が集まり、特に千葉からは5名が参加しました。

懐かしの鍛冶町は、すっかり変わっていましたが、語り合ったりカラオケを歌ったりして楽しく過ごすことが出来ました。次回は、卒業50年を記念して2年後の2021年に、弘前で実施する事を決めて、皆元気で再会できるのを誓い合いました。



福島支部同窓会を開催しました

平成24年1月以来となる、弘前大学農学生命科学部福島支部同窓会（通称：わんどの会）を令和元年9月7日に開催しました。

長らく開催できなかったのは、事務局の手間が大変であることが主な理由でしたが、震災以降に多くの若い方が県採用となり、事務局体制が整っ



たことから、今回の開催となりました。

大学からは加藤幸准教授に御参加いただきました。加藤先生は、農業農村工学会（東京で開催）の帰り道に、大変お疲れの中、福島に寄っていただきました。

お昼に福島駅に到着後、磐梯吾妻スカイラインを通過して標高約1600mの浄土平までドライブし、それから吾妻小富士を登って雄大な景色を楽しんでいただきました。

同窓会は飯坂温泉みちのく荘で開催しました。加藤先生からは弘前大学ブランドの日本酒や弘前大学創立70周年記念ワインの差し入れもあり、大学時代の思い出話や近況報告で、夜遅くまでおおいに盛り上がりました。

今後とも、福島支部同窓会を盛り上げていきたいと思っておりますので、引き続き御指導方よろしくお願ひします。

（昭和57年 水利学教室卒業 土崎 真）

訃報

神田健策 副学長（旧 園芸農学科）
大町鉄雄 名誉教授（分子生命科学科）
豊田 隆 元准教授（農業経営学）
高橋 宏 様（農経 昭和36年卒）
柳川 勝 様（農学 昭和38年卒）
杉本富男 様（農地 昭和53年卒）

女鹿俊勝 様（土肥 昭和54年卒）
高橋 哲 様（園芸 昭和61年卒）
青木美和 様（園化 平成4年卒）

上記会員のご逝去の報が届きました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

最新の情報は同窓会ホームページでご覧下さい (<http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>)